

令和7年度予算編成にあたって

富田林市長 吉村 善美

令和7年度下水道事業当初予算は、2期目の折り返しとなる3年目を迎え、私が市民の皆さまとお約束をした公約の実現はもとより、更に発展させていくための重要な予算編成となります。

また、令和7年は、いよいよ大阪・関西万博が開催され、大阪・関西地域はもちろん、本市の魅力を国内外にアピールする絶好の機会となる年です。

一方で、新型コロナウイルス感染症との闘いは一定の区切りがつかしましたが、世界情勢の悪化や為替の変動による物価高騰は長期化しており、改善の兆しは見えないまま、現在も市民生活に大きな影響を与え続けています。また、1月の能登半島地震や、8月に初めて発表された南海トラフ地震臨時情報など、市民の防災に対する意識も高まっています。

そのような状況において、私は、政治信条である「市民とともにつくる、市民が幸せになる、市民本位の市政」の実現のため、先頭に立って取り組み、誰もが「富田林に生まれて良かった、暮らして良かった、長生きして良かった」と思っただけの富田林の創造に向けて、「一つ、ひとつ、未来へ」前進していく決意を改めて胸に深く刻んでいるところです。

下水道事業を取り巻く経営環境においても、使用料収益が減少局面に入った一方、エネルギー価格及び資材価格の上昇など、一層厳しさが増すとともに、自然災害の頻発・激甚化に対応するため、災害に強い持続可能な下水道を築くことの重要性が高まっています。

職員の皆さんは、「厳しい財政状況だから、できません」と思考を停止して、「できない理由」を探すのではなく、「どうすれば厳しい財政状況でもできるのか」を常に考え、答えを探し当て、実行してください

い。

また、これまで実施してきた取組みに対しては、漫然と継続するのではなく、常に改善意識や問題意識を持ち、今より改善や見直しできる点はないか、新たに取り組むべき事業の財源や人員を生み出せないかなど、考えてみてください。そのような積極的な提案を私は期待しています。

予算編成に当たっては、より効率的な予算とするよう、必要な事業を精査し、重要度、優先度に応じて選択と集中を行ってください。

以上のことを念頭に置き、令和7年度の予算編成に臨んでください。

(財政状況と見通し)

下水事業の根幹となる使用料収益は令和2年度から減少が続いており、今後も減少が続くことが予想されます。令和5年度決算においては、対前年度比1.5%減となりました。整備進捗に伴う新規接続はあるものの、人口減少による影響が大きく、使用料収入については減少傾向にあり、3年連続で対前年度比が減少となっています。

費用面では、流域下水道維持管理費負担金の決算額が、令和5年度において対前年度比110.4%の大幅増となっているほか、整備進捗に伴って減価償却費も増加が続いています。さらに、令和7年度からは大阪府へ支払う流域下水道事業維持管理費負担金において、減価償却費に対する負担金が始まるほか、流域下水道建設負担金においても、大幅な増額が計画され、資金需要が増加していくことが予想されます。

本市においても、管渠の老朽化に伴い、修繕、改築等が増加することが見込まれます。また、近年、局地的な豪雨も増加していることから、雨水対策の必要性も高まってきています。さらに、物価の急激に上昇は、支出を増大させる懸念材料となります。

このように、収益、費用の両面から収支が悪化する傾向が続くことが予想され、今後も厳しい経営状況下にあります。そのうえで、新規

整備、既存施設の適正な維持管理に努めなければなりません。財政面は非常に厳しい状況が続いていると認識してください。

(予算の基本方針)

収入の予算編成は、受益者負担の原則、住民公平性確保観点から諸物価動向、他市の状況などから、的確な額を計上してください。補助金の対象となる事業を単独事業として実施することのないように、十分留意してください。

支出の予算編成は、「収入に見合ったものとする。こと。」、「財源を意識し、計上額を過大に見積もることのないようにすること。」、「事業の実施にあたっては、複数の手法を比較検討しコスト削減に努めること。」、「人口が減少していることから、将来を見据えた規模の事業であるかも精査すること。」、「財源の確保については、国庫支出金、公営企業債、分担金などを最大限活用し、一般会計からの繰出金については最小限とすること。」を十分に心がけ、重要度、優先度を考慮した無駄のないものとされるようにしてください。

全職員一人ひとりが、予算編成を「自分ごと」として自覚し、知恵を出し合い、来年度の予算編成に取り組みましょう。

以上、令和7年度予算編成の基本方針とします。